

山梨県南アルプス市

平成25年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2015.3
南アルプス市教育委員会

山梨県南アルプス市

平成 25 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2015. 3

南アルプス市教育委員会

例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成 25 年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆、編集は斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一が行った。
5. 整理作業には、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、桜本みなみ、塩澤宏紀、高畠美和、穂坂美佐子、山路宏美が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。(敬称略・五十音順)

公益財團法人山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

凡　例

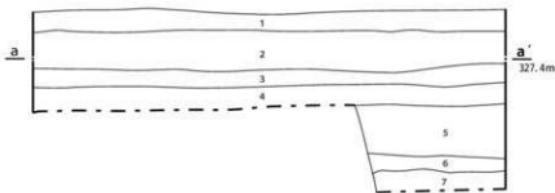
1. 遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。

土器・・・・1/3

2. トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に示したが、原則は以下の通りである。



3. 遺構の断面図、基本層序図における「327.4m」等の数値は標高を表す。



目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成25年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
第Ⅱ章 平成25年度遺跡試掘調査概要	5
1. 赤面B遺跡	5
2. 野牛島・石橋遺跡、野牛島・大塚遺跡	10
3. 坂ノ上姥神遺跡第2地点	20
4. 坂ノ上姥神遺跡第5地点	22
5. 東出口遺跡	24
6. 寺部村附第6遺跡	26

第Ⅰ章 平成25年度試掘調査概要

1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06㎢、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙丈ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御動使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

2. 調査概要

平成25年度(2013)の日本経済は、前年度の12月から進められた大胆な金融緩和や機動的な財政出動が本格化し、さらに平成26年4月1日で消費税率が5%から8%に引き上げられたことから、税率引き上げ前の開発行為が増加した。開発行為件数は、昨年度44件に対し平成25年度が63件と一緒に19件増加している(第3表、グラフ1)。それに対し、平成25年度の試掘調査は総数21件を数え、前年度と比べほぼ横ばいである(第1・2表)。

調査原因を公共事業、民間事業別で見ると、公共事業に対する試掘の割合は、平成15～17年度までは約11～15%であったが、平成18年度を境に増加に転じ、平成20・21年度には30～34%ま

調査原因	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	2	0	1	35
	学校	2	0	1	2	1	1	4	0	1	0	12
	その他の公共施設	2	1	4	0	2	3	0	5	1	3	23
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	小計	7	4	8	9	7	10	9	7	2	4	72
	公共事業の割合(%)	14.9	11.8	14.8	23.7	29.2	34.5	30.0	20.0	9.1	20.0	23.8
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	9	3	0	44
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	6	5	2	48
	工場	0	2	4	3	1	2	1	1	2	1	17
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	0	3	2	26
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	8	5	8	97
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	1	0	0	12
	その他	1	3	3	2	0	4	1	3	2	3	25
小計		40	30	46	29	17	19	21	28	20	16	282
合計		47	34	54	38	24	29	30	35	22	20	354

第1表 平成15～25年度試掘調査原因一覧

第2表 平成25年度試掘調査一覧

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	トレント数	遺構	遺物	調査期間	調査原因
1	上ノ平遺跡	東山地区	75,000	9,15	1	なし	なし	2011年4月30日	墓地地盤災害発達
2	赤坂日遺跡	河原743	44	11,34	1	土坑	なし	2013年4月21日	地小屋根
3	赤坂日遺跡	川原702-1他	427,41	10,5	1	なし	なし	2013年4月26日	集会住宅
4	上弓削674他	上弓削674他	3,046	12,46	2	なし	なし	2013年5月10日	宅地造成(分譲住宅)
5	大野原日遺跡	赤坂1064-1他	2,929	7	1	なし	なし	2013年5月16日	法解
6	河原766他	河原766-他	349	26	2	なし	なし	2013年6月4日	宅地造成(分譲住宅)
7	西高岡738他	西高岡738他	3,943	4,8	2	なし	なし	2013年7月26日	地盤保険地盤
8	八田原人遺跡	小笠原1328-1他	1,415	3,70	1	なし	なし	2013年7月25日	福地施設建設
9	野中島・石橋遺跡、野中島・大塚遺跡	野中島8095-1他	2,756	53,6	6	柱穴建物、溝状遺跡、土坑	かわらけ、鍋	2013年7月26～8月1日	宅地造成(分譲住宅)
10	下弓削遺跡263-1	下弓削263-1	254	10,25	2	なし	土器	2013年8月12日	集会住宅
11	赤坂140-6他	赤坂140-6他	2,089,29	24,6	3	溝状遺跡?	なし	2013年8月27、22日	宅地造成(分譲住宅)
12	山岸1002-1	山岸1002-1	1,164	8,75	1	なし	なし	2013年8月26日	宅地造成(分譲住宅)
13	坂ノ上鍵神遺跡群2号地	坂ノ上179-1	4,004	15,5	1	柱穴建物	土器	2013年9月27日	私有小、半規的井筒
14	坂ノ上鍵神遺跡3号地	坂ノ上1722	400	22,17	1	柱穴建物、溝状遺跡、土坑	土器類、瓦類	2013年10月6日	復元壁式古窯
15	二郷原1遺跡	柳原257-3他	2,006	8,05	2	なし	なし	2013年10月15日	法解
16	東出口遺跡	下宮地626-1他	48,975	46,36	8	柱穴建物、土式	陶瓶、土器類	2013年10月21～29日、2014年1月10～18日	宅地造成(分譲住宅)
17	加賀新井奈良遺跡	御前267他	2,136	20	3	なし	なし	2013年12月11日	宅地造成(分譲住宅)
18	牛岡原4遺跡	御手本1303	1,034	36,5	2	なし	なし	2014年1月7日	集会住宅
19	赤坂日遺跡	河原46地	3,110	63	6	溝状遺跡	なし	2014年1月26～28日	古墳標示牌
20	川上527-1	川上527-1	1,019	13,5	1	なし	なし	2014年1月25日	宅地造成(分譲住宅)
21	赤坂日遺跡6遺跡	赤坂1059-1他	650	64,5	6	溝状遺跡、土坑	土器類、瓦類	2014年1月26～28日	赤坂新第1号地

で増加、しかし平成22年度以降は24%以下が続いている。平成21年度までは災害復旧などの公共事業による緊急経済対策が図られ、その結果比率が高まったと考えられるが、市全体での財政再建に取り組む中、公共事業を抑制せざるをえない状況を示している。

開発行為における用途別で見ると、宅地造成(分譲住宅)が8件、集合住宅が3件を数え、例年どおり住宅にかかる調査原因の件数が多い。上述した消費税率引き上げに伴い、住宅の駆け込み需要が増加し、宅地造成(分譲住宅)の開発が積極的に進められた結果、第II章で報告する6遺跡の内、宅地造成(分譲住宅)に伴って試掘調査された野牛島・石橋遺跡(野牛島・大塚遺跡も対象範囲。以下省略)、東出口遺跡については、平成25年度中に本調査が実施されている。

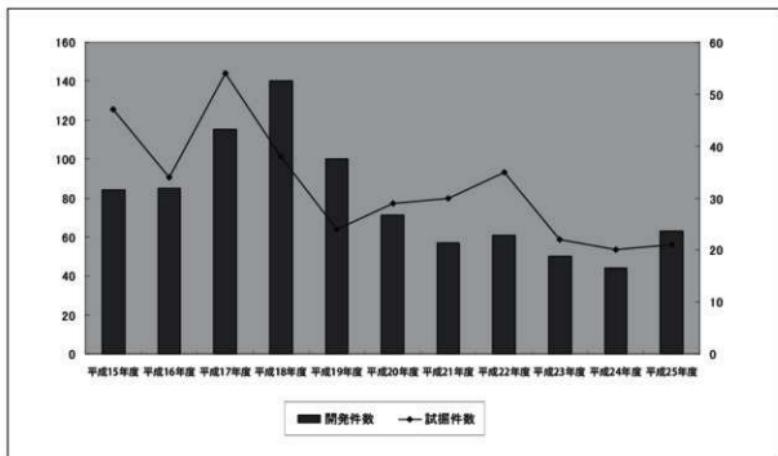
本年度の主な調査結果を外観すると、野牛島・石橋遺跡では中世の遺構とともにこれまで発見されていなかった奈良・平安時代の竪穴建物が発見され、能蔵池周辺の集落変遷を把握する上で新たな知見が得られた。坂ノ上姫神遺跡第5地点では、近接した第1・第2トレントで3軒の竪穴建物が検出され、改めて御勅使川扇状地扇端部における遺構の分布密度が高いことが確認された。東出口遺跡は平成18年に発掘調査が行われ、約933 m²の調査範囲の中で、古代を中心とした竪穴建物34軒が密集して検出され、大井郷の中心地域である可能性が指摘されている。今回調査された地点はその南側であり、多数の遺構の検出が予想されたが、検出遺構数が少なく、集落の南限が確認されたと推測されている。一方寺部村附第6遺跡では調査区北半で御勅使川の洪水流による砂礫層が堆積しており、南半で古墳時代前期および平安時代後半の遺構・遺物が検出された。南側の新山梨環状道路で調査された遺跡の北限が

試掘調査で確認されたことになる。

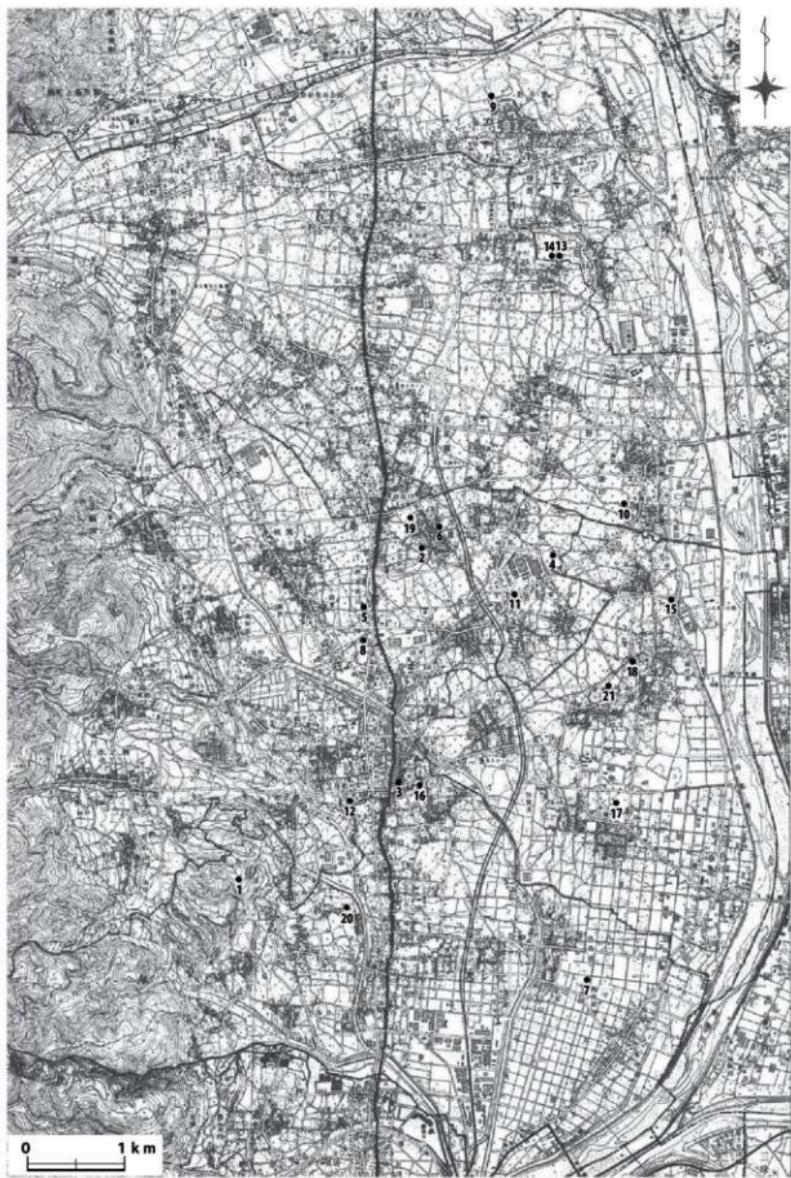
以上の結果は、小規模な調査範囲の試掘調査であっても、集落全体の範囲を把握する上で貴重なデータや新たな知見が得られた事例である。試掘調査後、本調査にいたるケースが増加しており、適切に文化財を保護し、工事・開発と円滑な調整を図るためにも、綿密な試掘調査が求められている。試掘調査の積み重ねと調査結果のデータ分析が、埋蔵文化財保護にとっての基盤であり、開発行為が増加する今日、ますますその重要性は高まっていると考えられる。

年度	開発件数	試掘件数
平成 15 年度	84	47
平成 16 年度	85	34
平成 17 年度	115	54
平成 18 年度	140	38
平成 19 年度	100	24
平成 20 年度	71	29
平成 21 年度	57	30
平成 22 年度	61	35
平成 23 年度	50	22
平成 24 年度	44	20
平成 25 年度	63	21
合計	870	354

第 3 表 年度別開発行為件数および試掘件数



グラフ 1 年度別開発行為件数および試掘件数



第1図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 平成 25 年度遺跡試掘調査概要

1. 赤面B遺跡

調査地 沢登 743

調査原因 防火水槽（平成 24 年度は公会堂建設）

調査期間 平成 25 年 4 月 23 日

（平成 24 年 7 月 3 日～平成 25 年 3 月 4 日）

対象／調査面積 44 m² / 11.14 m²

（合計 1,678 m² / 142.27 m²）

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地の扇尖部に位置する。

本地点の南約 300 m の地点には赤面 C 遺跡があり、

過去に道路建設に伴って弥生時代から古墳時代初頭

の堅穴建物跡が検出されている。さらに南東には十五所遺跡、豊小学校遺跡など、同じ扇尖部から扇端部にかけて立地する、弥生時代から平安時代にかけての集落の様相が判明している。扇端部から徐々に扇尖部にかけて開拓し続けた先人の暮らしがみえてきた地域である。

本試掘調査は沢登区公会堂の建設予定地内に計画された防火水槽の設置工事に伴うもので、それに先立ち、平成 24 年度には、同じ敷地内において、公会堂建設工事に伴う試掘調査を実施している。ここではその両方の調査成果について報告するものである。

調査の経緯は、平成 25 年 7 月に敷地全体に試掘溝を設定して調査を実施し、その結果遺構が確認され、協議のうえ遺構を保護する方針で設計図が進められた。基礎の計画が確定したところでその範囲における遺構の有無を確認するために再度試掘調査を実施し、一部検出された遺構については記録保存を行った。平成 25 年度に入り防火水槽の計画範囲において試掘調査を実施した。設定したトレーニングの番号は通し番号で表記している。

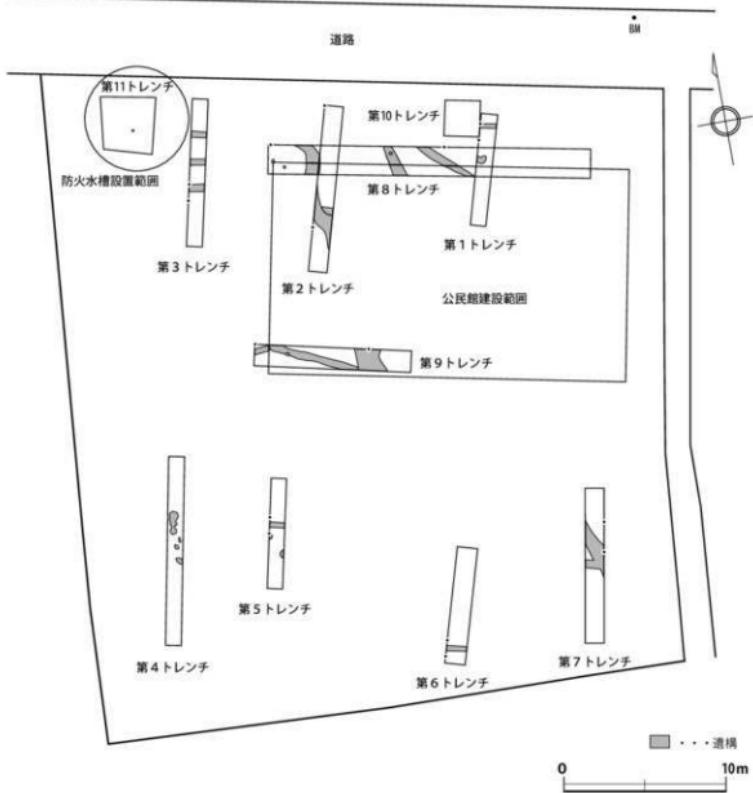
発見された遺構と遺物

全体を通して地形の傾斜とほぼ同じ方向で流路跡とみられる砂礫層及びその範囲が確認された。また、東西方向の溝状の痕跡も数条検出された。第 4 トレーニングでは焼土が集中する範囲も検出されたが現地保存できている。計画建物のラップル基礎が打設される範囲（第 8 トレーニングと第 9 トレーニング）において記録保存が必要とされたのは溝状遺構 3 条と、土坑 4 基であり、また、防火水槽設置範囲（第 11 トレーニング）においては土坑 1 基を検出しており、狭小且つ軽微な内容でもあったためその場において最低限の記録を実施している。

遺物は土師質土器片数点が出土したものと想定されるが、得るものはない。



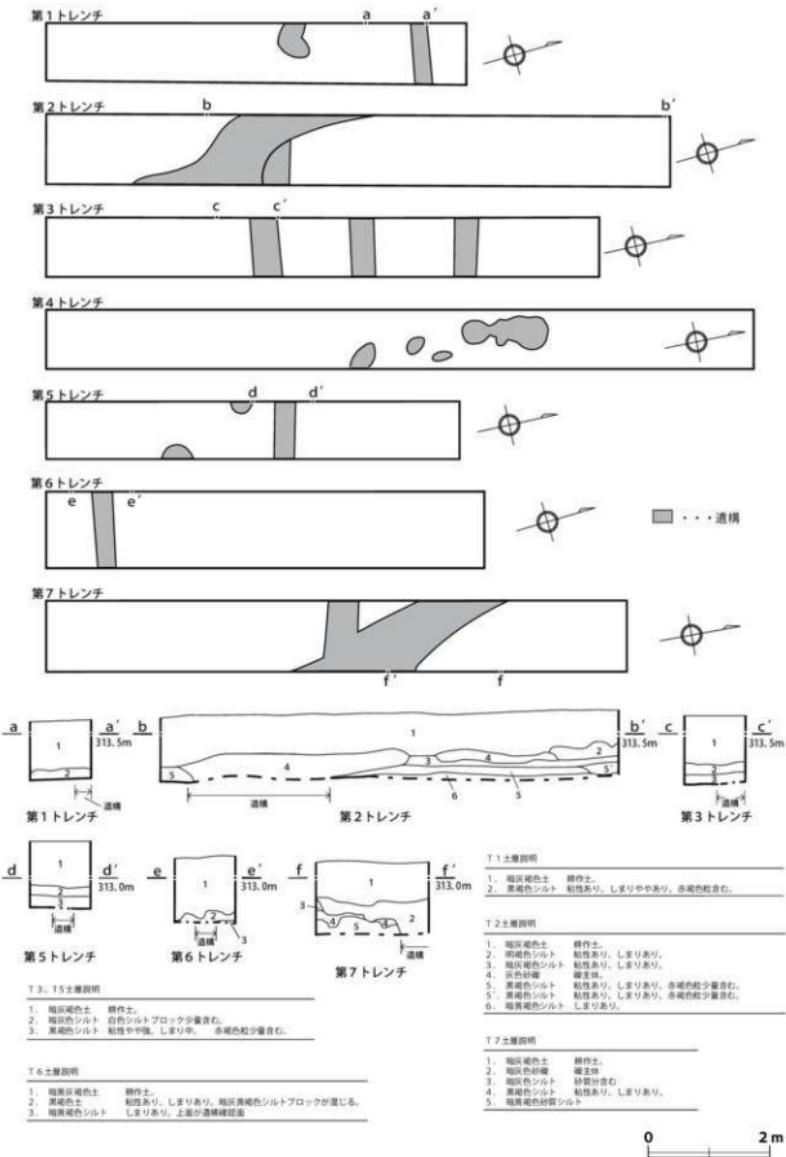
第 1 - 1 図 調査位置図 (1/5,000)



第1トレーンチおよび調査風景（北東から）

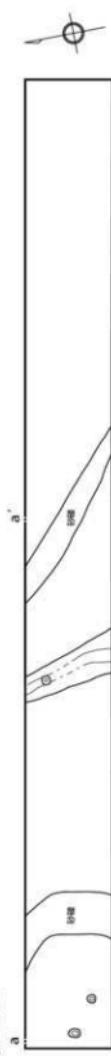


第11トレーンチ掘削風景（北西から）

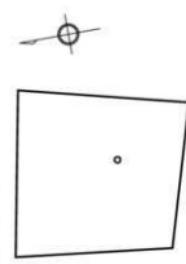


第1 - 3図 第1 ~ 7トレンチ遺構配置および断面図 (1/80)

第8トレンチ



第11トレンチ



T8断面図

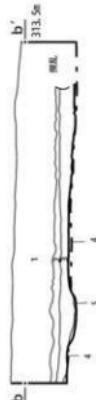
1. 白灰色土
2. 黄褐色砂質土
3. 黄褐色シルト
4. 黄褐色シルト
5. 黄褐色砂質シルト
6. 黄褐色砂質シルト

T9断面図

1. 白灰色土
2. 黄褐色シルト
3. 黄褐色シルト
4. 黄褐色シルト
5. 黄褐色シルト

0
2m

第9トレンチ





第2トレンチ遺構検出状況（東から）



第2トレンチ遺構検出状況（東から）



第2トレンチ遺構検出状況（東から）

2. 野牛島・石橋遺跡、野牛島・大塚遺跡

調査地 野牛島 2695-1 他

調査原因 宅地造成（分譲住宅）

調査期間 平成 25 年 7 月 29 ~ 8 月 1 日

対象／調査面積 2,756 m² / 58.6 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査地点の東側には、御勅使川の伏流水が湧出した水を堰きとめて造られた能蔵池が隣接している。能蔵池は野牛島の水源だけでなく下流の村々を潤す重要な水源の一つであった。

調査地点の南側は、旧八田村道を拡幅する際に平成 14 年度八田村教育委員会によって発掘調査が実施されており、中世の溝状遺構や土坑、土坑墓などが検出されている。

本試掘調査は宅地造成に伴うものである。合計 6 箇所のトレンチを設定した。調査の結果すべてのトレンチから遺構が検出された。

発見された遺構と遺物

第 1 トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑 6 基、調査範囲外にのびる形状不明の遺構を検出した。遺構の覆土は炭化物や焼土粒が含まれている褐色土である。

第 2 トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑 1 基、溝状遺構 1 条を検出した。土坑の覆土は炭化物や焼土粒が多量に含まれていた。溝状遺構は検出された確認面での幅は 80 ~ 94cm を測る。

第 3 トレンチ

地表から約 85cm の地点から溝状遺構 2 条を検出した。ほぼ東西に走り、検出された確認面での幅はそれぞれ 92 ~ 124cm, 68 ~ 74cm を測る。

第 4 トレンチ

地表から約 80cm の地点から土坑を 2 基検出した。しかし、地山層に石が多数含まれており、形状は不明瞭である。

第 5 トレンチ

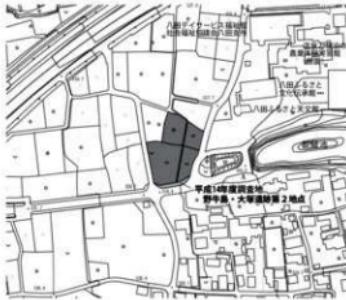
地表から約 78cm の地点から土坑を 2 基検出した。第 4 トレンチ同様遺構の形状が不明瞭である。これは地山である明褐色土に 20cm 以下の石が多量に含まれており、一時河川の影響を受けたことが示唆される。

第 6 トレンチ

地表から約 75cm の地点から竪穴建物を 1 軒検出した。竪穴建物の覆土は他の遺構と異なり暗褐色土シルトが主体である。出土遺物および遺構の形状から奈良・平安時代の遺構と考えられる。

総括

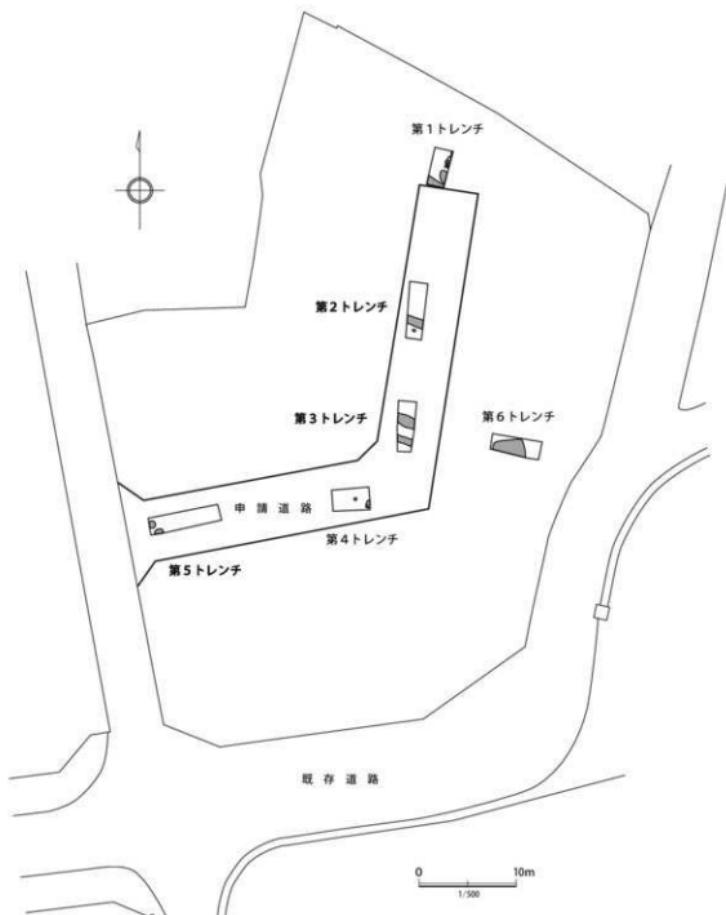
今回の試掘調査によって初めて能蔵池周辺で奈良・平安時代の竪穴建物が検出された。遺跡の立地する野牛島地区では、奈良・平安時代の集落の中心は大塚遺跡から野牛島・大塚遺跡、立石下遺跡、野牛島・西ノ久保遺跡付近であり、能蔵池に近接する地域では古代の竪穴建物は検出されていなかった。し



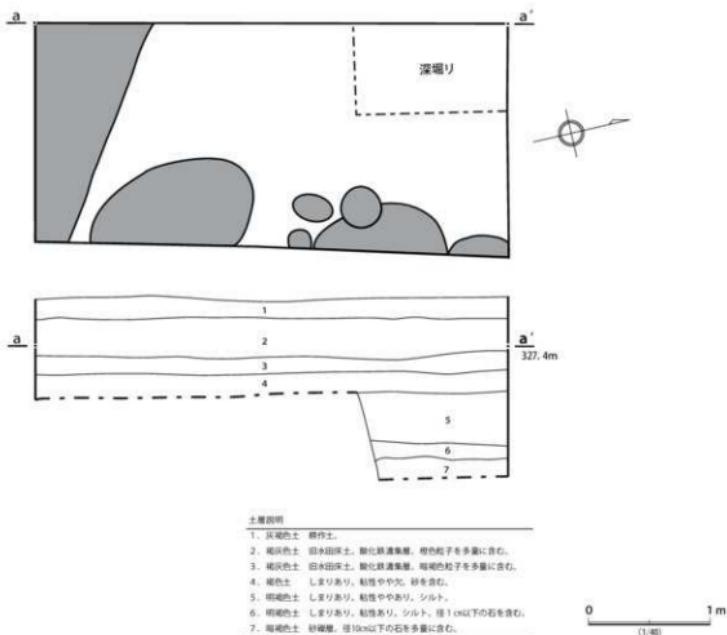
第 2-1 図 調査位置図 (1/5,000)

かし、第6トレンチで古代の竪穴建物が発見され、遺構は少ないながら古代において能蔵池西側にも集落が営まれていたことが明らかとなった。

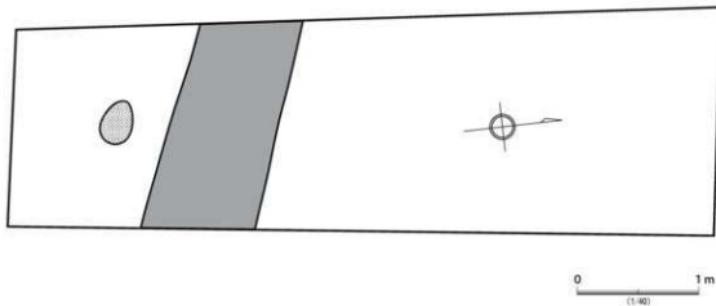
調査後、市教育委員会と事業主体者との協議の結果、道路部分を除く工事区域で山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層を確保し、遺跡を埋設保存とすることで合意した。また明確な遺構が検出された道路部分については、両者で協定書を締結し、平成25年10月に事業主体者から依頼を受けた市教育委員会が本調査を実施した。



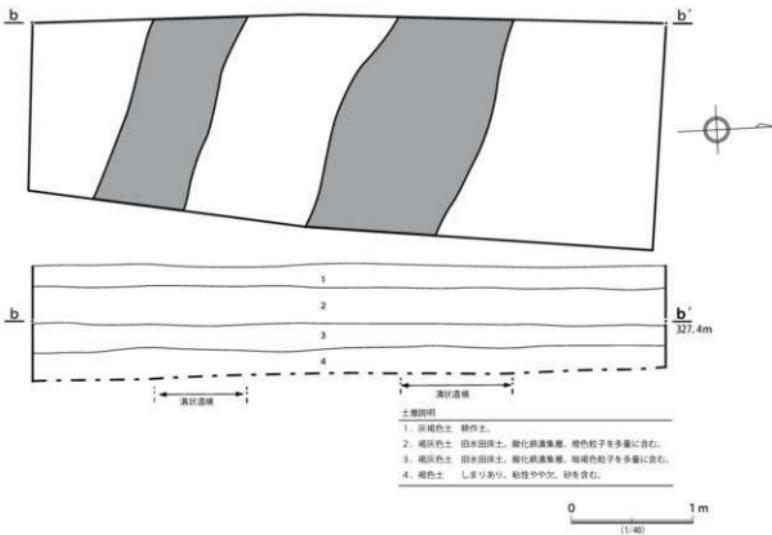
第2-2図 トレンチ配置図 (1/500)



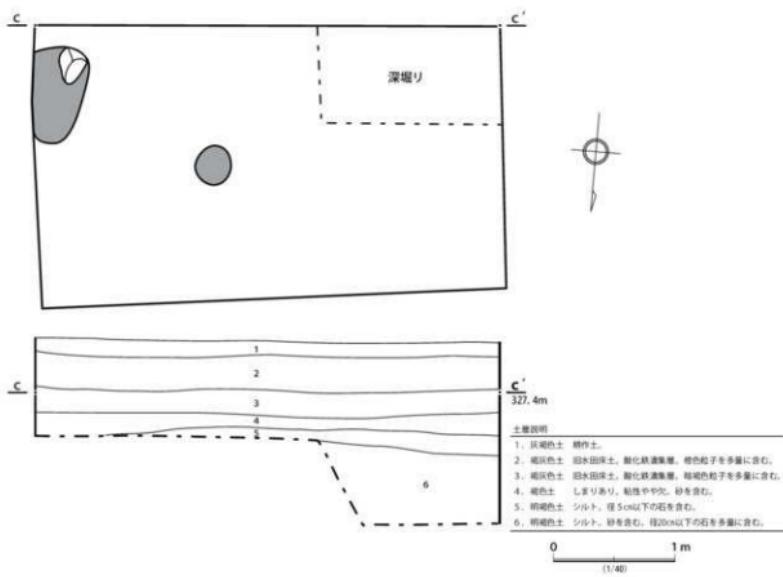
第2・3図 第1トレンチ平・断面図 (1/40)



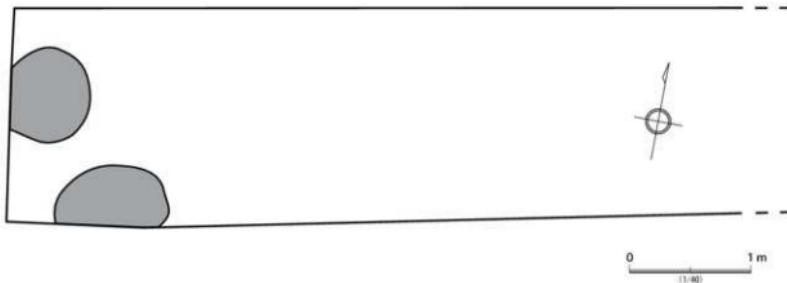
第2・4図 第2トレンチ平面図 (1/40)



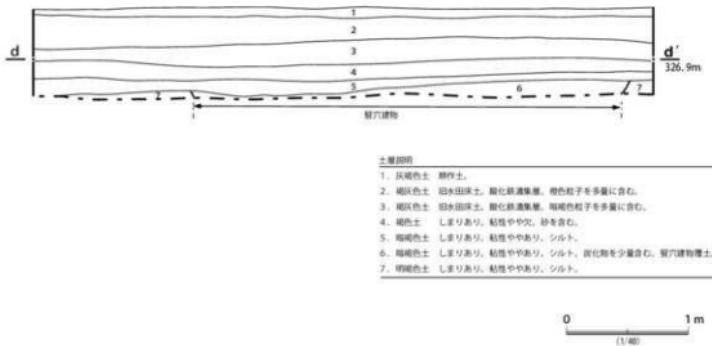
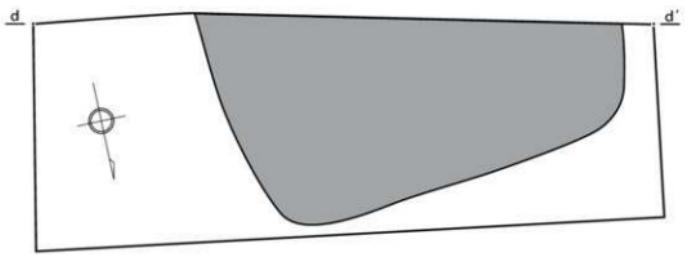
第2-5図 第3トレンチ平・断面図 (1/40)



第2-6図 第4トレンチ平・断面図 (1/40)



第2-7図 第5トレンチ平面図 (1/40)



第2-8図 第6トレンチ平・断面図 (1/40)



第1 トレンチ全景（北から）



第1 トレンチ全景（南から）



第2 トレンチ全景（南から）



第2トレンチ遺構検出状況（東から）



第3トレンチ全景（北から）



第3トレンチ全景（南から）



第4トレンチ全景（西から）



第4トレンチ土坑検出状況



第4トレンチ調査風景



第5トレーンチ全景（東から）



第5トレーンチ土坑検出状況



第6トレーンチ全景（東から）



第6トレンチ竪穴建物検出状況（北西から）



第6トレンチ調査風景



第6トレンチ調査風景

3. 坂ノ上姥神遺跡第2地点

調査地 德永 1719-1

調査原因 私立小、中学校体育館建設

調査期間 平成25年9月27日

対象／調査面積 818.04 m² / 15.5 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北側は宅地造成工事に伴い、平成15年度に道路部分の発掘調査が行われ、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。小中学校敷地内では、学校・寮建設や道路拡幅に伴い、試掘調査および本調査が行われ、古墳時代後期の竪穴建物、奈良・平安時代の竪穴建物や溝状遺構、中世の溝状遺構などが検出されている。調査区の南東には武田家の家臣であった金丸氏の館跡（現在は曹洞宗寺院長盛院）が位置し、長盛院本堂の建替工事に伴う試掘調査により、時期は不明ながら基壇状の遺構が発見されている。さらに南側には徳永・御崎遺跡が広がり、集合住宅や個人住宅建設に伴う調査の結果から、古代の竪穴建物や古墳時代後期の竪穴建物、さらに下層から縄文時代後期の敷石住居址が検出されている。

本試掘調査は南アルプス子どもの村小中学校体育館建設に伴うものである。任意寸法のトレントを1箇所設定した。なお、次項の調査原因である竪穴式住居復元は、同小中学校敷地内で進められた事業であるが、両工事の調査原因が異なるため、本報告書では別事業の調査として報告した。

発見された遺構と遺物

竪穴建物が1軒検出された。東西幅約3.3mを測る。竪穴建物東壁には焼土が集中したカマドが発見された。同小中学校敷地内では多数の古代の竪穴建物が検出されており、カマドの形態や覆土から考えると、この竪穴建物も奈良・平安時代の遺構である可能性が高い。

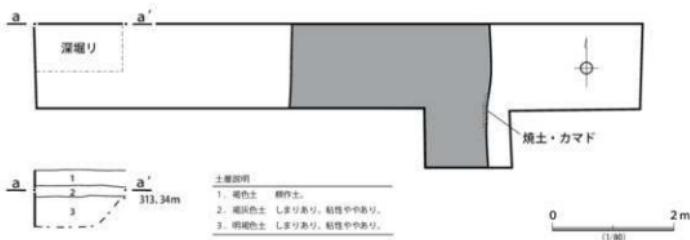
体育館建設区域は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、現状保存とした。



第3-1図 調査位置図 (1/5,000)



第3-2図 トレント配置図 (1/800)



第3-3図 第1トレーニング平・断面図 (1/80)



豎穴建物検出状況（東から）



豎穴建物検出状況（西から）



豎穴建物カマド



調査風景（西から）

4. 坂ノ上姥神遺跡第5地点

調査地 徳永 1722

調査原因 復元竪穴式住居

調査期間 平成25年10月8日

対象／調査面積 492 m² / 22.17 m²

調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。前項で述べたように、調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。

本試掘調査は南アルプス子どもの村中学校の授業の一環として行われた竪穴式住居の復元に伴う試掘調査である。当初復元が予定されていた区域に第1トレンチを設定し調査を実施した（トレンチ配置図は第2地点参照）。その結果、2軒が切り合った竪穴建物が検出された。2号竪穴建物は1号竪穴建物を切って造られている。2号竪穴建物北壁には焼土が集中するカマドが発見された。遺構の保存を考え、隣接した地点に第2トレンチを設定し、調査を行った。その結果、トレンチ西側に竪穴建物と推定される遺構、トレンチ東端に竪穴建物あるいは溝状遺構、中央に小土坑が6基検出された。

総括

今回の試掘調査によって、隣接した二つのトレンチで3軒もの竪穴建物が検出された。平成15年度に調査された本調査地点でも3軒が切り合った奈良・平安時代の竪穴建物が検出されている。こうした古代竪穴建物の切り合い関係は、前御勅使川右岸の野牛島地区ではほとんど発見されていない。御勅使川扇状地扇端部に位置する徳永・上八田地区では、崖下の沖積低地を利用しやすい崖際に古墳時代後期から継続して集落が営まれたことで、古代の遺構が数多く分布する状況が作り出されたと考えられる。本試掘調査およびこれまで行われてきた調査結果から、坂ノ上姥神遺跡は9世紀から本格化する御勅使川扇状地扇端部への牧開発と密接に関連した集落跡と考えられ、小規模であっても今後の調査成果をこれまでの調査結果に位置づけていくことが、扇状地開発を考える上で重要な作業といえるだろう。

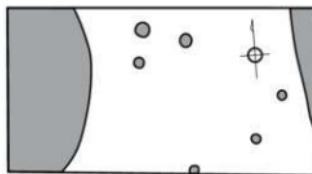
調査地点の遺構確認面は地表から約60cmを測り、堆積状況は坂ノ上姥神遺跡第2地点と同様である。復元する竪穴式住居の掘削深度は地表から約30cmであり、規模も2m×2mと小規模である。そのため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、竪穴建物復元区域は竪穴建物上にならない第2トレンチ中央部分とし、小土坑は掘削深度が及ばないため、現状保存とした。



第4-1図 調査位置図 (1/5,000)



第1トレンチ



第2トレンチ

0
1m
2m

第4-2図 第1・2トレンチ平面図 (1/80)



第1トレーニング全景（西から）



第1トレーニング豊穴建物検出状況（北から）



第2トレーニング全景（西から）



第2トレーニング遺構検出状況（南東から）



調査風景



調査風景

5. 東出口遺跡

調査地 下宮地 626-1 他

調査原因 宅地造成（分譲住宅）

調査期間 平成 25 年 10 月 21 ~ 29 日、

平成 26 年 1 月 10 ~ 18 日

対象／調査面積 4897.75 m² / 46.56 ㌶

調査概要

調査地点は御動使川扇状地の扇端部に形成された滝沢川扇状地の微高地上に立地する。

本地点の東約 300 m の地点には向第 1 遺跡があり、

過去に奈良・平安時代の集落跡が検出され、県内で初の

確認となった製塩に関する「焼塩土器」が出土していることでも知られる。

本遺跡では、当該調査区に北接する地点で平成 18 年度に本調査が行われ、10 世紀を中心とする奈良・平安時代の竪穴建物が密度濃く検出されている。また、本調査区の西接地点でも開発に伴い試掘調査が実施され竪穴建物が検出されている。

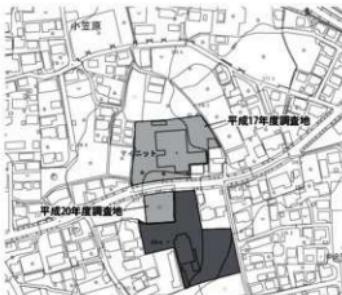
本試掘調査は宅地分譲の開発計画に伴うもので、過去の調査実績から遺構が検出されるのは必至と考えられていた。道路計画範囲内で試掘坑を設定したところ、北側では遺構・遺物が検出されたが、南へ離れるに従ってその密度は薄くなっていた。

協議を重ね、遺構の分布密度が薄かった試掘溝を改めて範囲を拡張して調査を実施し、竪穴建物が分布していることを確認したところで記録保存のための発掘調査へと切り替えている。

発見された遺構と遺物

竪穴建物とみられる遺構を 3 基、その他土坑等を検出した。遺物は、第 1 トレンチで竪穴建物の埋土内から羽釜など多数の土師器片を検出している。南へ離れるほど出土量は減少し、包含層内の遺物の混入も見られなくなった。

遺構・遺物とともにみられなくなる第 2 トレンチと第 3 トレンチの間までを本調査の範囲とした。本調査では 8 軒の竪穴建物を検出したが、密度は薄く、集落の中心は平成 18 年度に実施した調査区から当該調査区の第 1 トレンチ付近までの範囲とみられ、今回の調査範囲は集落の南限付近を調査したものとみられる。平成 25 年度に本調査を終え、平成 26 年度整理調査を実施している。



第 5 - 1 図 調査地位置図 (1/5,000)



第 1 トレンチ遺構検出状況（南から）



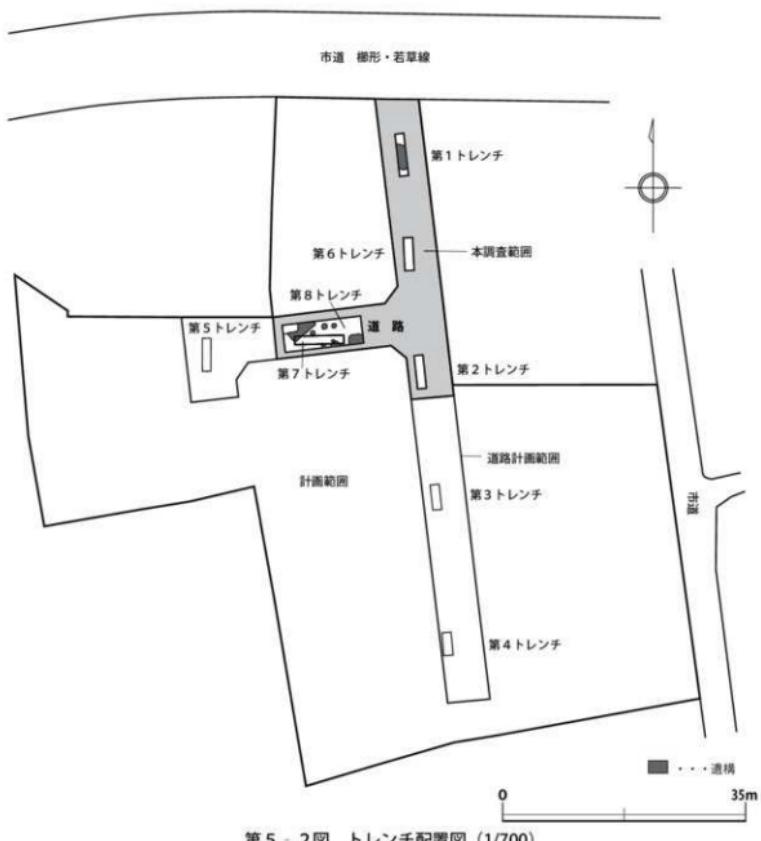
第 1 トレンチ遺物出土状況（東から）



第1トレンチ遺構検出状況（南から）



第1トレンチ遺物出土状況（東から）



6. 寺部村附第6遺跡

調査地 寺部 1859-1 他

調査原因 市道若草1号線

調査期間 平成26年3月26～28日

対象／調査面積 650 m² / 64.5 m²

調査概要

調査地点は、御勅使川扇状地の扇端部に位置する。寺部村附第6遺跡では、今回の調査区に南接する新山梨環状道路の建設などに伴って、これまで3次にわたる発掘調査が行なわれてきた。

第I地点では、古墳時代前期の竪穴住居址、古墳時

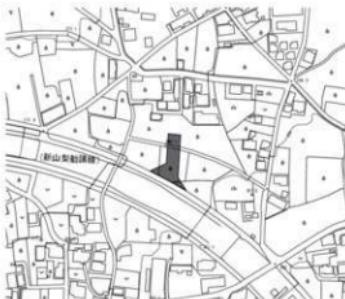
代中期の低墳丘墓、平安時代前・後半の竪穴住居址など、第II・第III地点では、古墳時代前期の遺物とともに、平安時代後半～中世の竪穴住居址、溝状遺構、井戸址などがそれぞれ検出されている。これまでの調査によって、御勅使川扇状地扇端部の湧水線に沿って弧状に広汎且つ濃密に古墳時代前期の遺跡が分布することが改めて確認されると共に、御勅使川扇状地に古墳時代中期の低墳丘墓が分布することが明らかとなった。また更には、平安時代後半～中世にかけての遺構や遺物の存在から、近世村落寺部村（現在の南アルプス市寺部地区）の礎が、この頃形成されていった様子も明らかとなっている。

今回の調査は、現在の寺部集落を縦断し、新山梨環状道路に接続した市道若草1号線を、新山梨環状道路と交差させて、さらに北に延伸する計画に伴うもので、平成26年度施工予定部分650 m²を対象に平成26年3月26日から同年3月28日にかけて実施した。調査予定地の現況は果樹園であり、トレンチの設定に際しては、縦横に巡らされた畑地灌漑施設（スプリンクラー）の配管に配慮する必要があった。そのため幅1.5 mのトレーンチを6本（1 T～6 T）設定したが、各トレーンチの長さは調査区に現況に応じて任意とした。

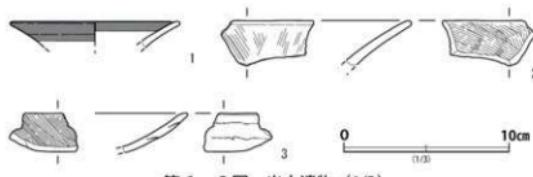
調査の結果、1 T・2 T・4 Tにおいて古墳時代前期及び平安時代後半の遺物包含層及び溝状遺構、土坑と考えられる遺構を検出した。一方で、3 Tは表層から大きく搅乱されており、確認面において溝状の遺構を検出したものの、その覆土はこの搅乱土層と同質であることから、近代以降の所産と考えられた。5 T・6 Tでは、遺物包含層である基本層序4層が欠如し、遺構も認められず、土層のほとんどが御勅使川の洪水に由来するとみられる砂礫層に占められることが明らかとなった。

総括

今回の調査では、本遺跡の主要な構成時期である古墳時代前期、及び平安時代後半の所産と考えられる遺構・遺物が検出され、遺構が新山梨環状道路北側にも広がることが明らかとなった。一方で、今回の調査対象範囲北半が御勅使川の洪水流に由来すると見られる砂礫層に占められることも明らかとなっており、本遺跡の北限を確認することができたといえる。なお検出された遺構のうち、1 T西半で検出された溝状遺構は、本遺跡第I地点で検出されている最大幅26 mにも及ぶ規模で検出された大規模な溝状遺構（6・11号溝）の一部と考えられる。この溝状遺構は、第I地点の調査においては、微高地を取り囲むようにU字形に屈曲して検出されたが、その性格は明らかにされていない。今後本調査によって新たな知見が得られることが期待される。なお試掘調査終了後、各トレーンチにおける所見に鑑み、1 T～3 T北側までの範囲で本調査が必要と判断され、この部分については、南アルプス市建設部道路整備課の負担により、平成26年7月14日から同年9月12日にかけて本調査が実施されている。



第6-1図 調査位置図 (1/5,000)



第6-2図 出土遺物 (1/3)

遺物番号	トレンチ	種類	寸法(幅×高さ)	性質	地層	地質	性質	目次番号	説明
1	1-T	瓦片陶器	11.5	砂礫	1	褐色	砂質粘土質	101	1
2	4-T	土器	-	砂質	2	ナチュラルトーン	褐色	101	2
3	4-T	土器	-	砂質	3	ナチュラルトーン	褐色	101	3

遺物観察表

第3トレンチ断面図



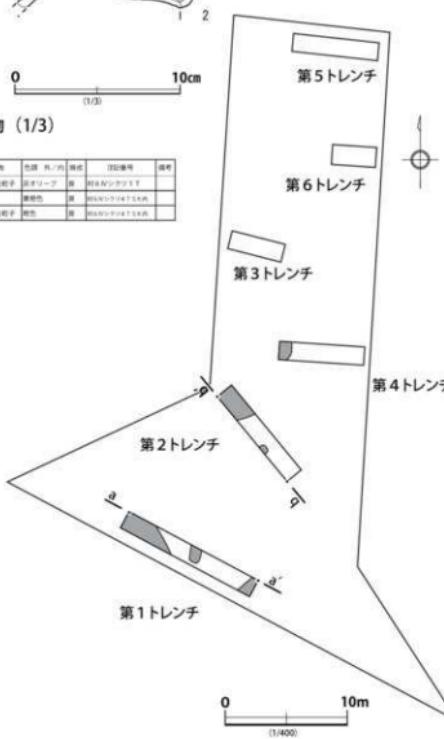
第5トレンチ断面図



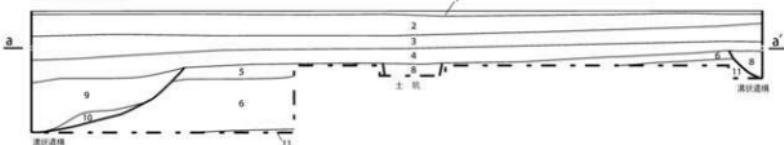
第4トレンチ断面図



第6トレンチ断面図



第1トレンチ断面図



第2トレンチ断面図



第6-3図 トレンチ配置図 (1/400) およびトレンチ平・断面図 (1/80)



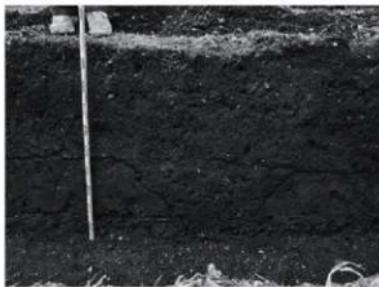
第1トレンチ全景（西から）



第1トレンチ土層検出状況（南から）



第2トレンチ全景（西から）



第2トレンチ遺構検出状況（北から）



第3トレンチ全景（東から）



第3トレンチ土層検出状況（南から）



第4 トレンチ全景（西から）



第4 トレンチ遺構検出状況（南から）



第5 トレンチ全景（西から）



第5 トレンチ土層検出状況（南から）



第6 トレンチ全景（西から）



第6 トレンチ土層検出状況（南から）

報告書抄録

ふりがな	へいせい 25ねんどまいぞうぶんかざいしきちょうさほうこくしょ
書名	平成25年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副書名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
編著者名	斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)				
赤面B道路	沢賀 743	19208	KG-12	35° 37' 38"	138° 28' 12"	314	2013年7月3日～ 2014年3月4日/ 2014年4月23日	142.27 / 11.14	公会堂 / 防火水槽
野牛島・石橋遺跡、 野牛島・大塚遺跡	野牛島 2695-1他	19208	HT-18 HT-19	35° 40' 07"	138° 28' 41"	328	2013年7月29～8月 1日	58.6	宅地造成(分 譲住宅)
坂ノ上純神道跡 第2地点	徳永 1719-1	19208	HT-40	35° 39' 15"	138° 29' 11"	314	2013年9月27日	15.5	私立小、中学 校体育館建設
坂ノ上純神道跡 第3地点	徳永 1722	19208	HT-40	35° 39' 15"	138° 29' 10"	314	2013年10月8日	22.17	復元整穴式 住居
東出口遺跡	大字宮地 626-1他	19208	KG-139	35° 36' 18"	138° 28' 11"	276	2013年10月21日～ 2014年1月10 ～18日	46.56	宅地造成(分 譲住宅)
寺部村附第6遺跡	寺部 1859-1他	19208	WK-31	35° 36' 50"	138° 29' 29"	268	2014年3月26～28日	64.5	市道若草1 号線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤面B道路	散布地	中世・近世	溝状遺構、土坑	土師質土器	
野牛島・石橋遺跡、 野牛島・大塚遺跡	散布地、集落	奈良・平安～中世	竪穴建物、溝状遺構、 土坑	かわらけ、鏡	
坂ノ上純神道跡 第2地点	散布地	奈良・平安	竪穴建物	土師器	
坂ノ上純神道跡 第5地点	散布地	奈良・平安	竪穴建物、溝状遺構、 土坑	土師器、灰釉陶器	
東出口遺跡	散布地	平安	竪穴建物、土坑	羽蓋、土師器	
寺部村附第6遺跡	散布地	古墳前期、平安後期	溝状遺構、土坑	土師器、灰釉陶器	

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第43集

山梨県南アルプス市

平成25年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日 2015年3月31日

発行者 南アルプス市教育委員会

〒 400-0492

山梨県南アルプス市鮎沢1212

TEL 055-282-7269

印刷所 株式会社エンドレス

〒 405-0014

山梨県山梨市上石森123

TEL 0553-22-4574